

# 令和元年度 第29回広島県中学校特別活動研究大会 (東部大会)

## —研究主題—

「主体的・対話的で深い学びを促す特別活動の創造」  
～話し合い活動を通じた合意形成力の育成～



令和元年11月18日(月)

尾道市立日比崎中学校



# 目 次

1	あいさつ	1
2	大会概要	2
3	開会行事 開会あいさつ，来賓あいさつ	4
4	日比崎中学校研究構想図	6
5	公開授業 学習指導案	
	1年3組「文化祭」伝統を受け継ぐ	9
	～ 日比中生に求められること ～	
	2年1組「文化祭」伝統を受け継ぐ	18
	～ 日比中の新リーダーとして ～	
	3年3組「文化祭」伝統を受け継ぐ	25
	～ 日比中で得た宝物 ～	
6	記念講演	30
7	分科会 提案概要	
	第1分科会 海田町立海田中学校	31
	第2分科会 福山市立大成館中学校	33
	第3分科会 広島市立己斐中学校	35
	第4分科会 安芸高田市立高宮中学校	37
8	協議会報告 講評	39
9	閉会行事 閉会あいさつ，次期開催地代表あいさつ	41
10	広島県中学校特別活動研究大会の経過	42
11	令和元年度広島県中学校教育研究会特別活動部会 理事一覧表	44



# あ い さ つ

広島県中学校教育研究会特別活動部会長  
広島県中学校特別活動研究大会(東部大会)実行委員長  
尾道市立日比崎中学校長 宮里 浩寧

第29回広島県中学校特別活動研究大会(東部大会)を、國學院大學人間開発学部教授、杉田 洋様にご講演いただきますとともに、広島県東部教育事務所 所長 立花 正行様、尾道市教育委員会 教育委員 木曾 奈美様をはじめ、多数の関係の皆様のご臨席を賜ります中で、ここ尾道市立日比崎中学校で開催できますことは、誠に光荣であり、ご参加いただきましたすべての皆様に深く感謝申し上げます。

さて、新しい学習指導要領の改訂では、特別活動の特質を踏まえ、これまでの目標を整理し、「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」の三つを指導する上で重要な視点とすると同時に、この三つの視点を踏まえて、各活動及び学校行事を通して育成する資質・能力を明確にされました。さらに、内容については、自治的能力や主演者として積極的に社会参画する力を重視するため、学校や学級の課題を見だし、よりよく解決するために、話し合っ合意形成し実践することや、主体的に組織を作り、役割分担して協力し合うことの重要性を明確にしています。

このような中、広島県中学校教育研究会特別活動部会では、研究主題である「主体的・対話的で深い学びを促す特別活動の創造」のもと、各地域・学校で実践を重ねてまいりました。今年度も県内各地から、日頃の実践を持ち寄り発表していただきます。4つの分科会の提案は、それぞれ、学校・地域において実践されている活動ですが、いずれも特別活動の目標に示されている望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、集団の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てるとともに、人間としての生き方についての考えを深め、自己を生かすことをめざして、様々に工夫された質の高い内容であると考えています。

また、本日は各学年において学級活動の授業公開を行います。この授業公開では「話し合い活動を通して合意形成力の育成」を目指す授業になっているかを研究協議の視点に掲げています。色々な見方や考え方からの忌憚のないご意見をいただき、広島県において特別活動が今以上に生徒達にとって意味のある活動となる様に、この大会で協議されたことが、明日からの各校での教育実践に生かされることを願っています。

最後になりましたが、本研究大会の開催にあたり、ご指導・ご助言いただきました広島県教育委員会、尾道市教育委員会の皆様、準備・運営を行っていただいた実行委員会の先生方など、本日まで関わっていただいた全ての皆様に心から感謝申し上げます、挨拶いたします。

## 第29回 広島県中学校特別活動研究大会(東部大会)

**研究主題** 「主体的・対話的で深い学びを促す特別活動の創造」  
～話し合い活動を通じた合意形成力の育成～

**期 日** 令和元年11月18日(月)

**会 場** 尾道市立日比崎中学校(広島県尾道市日比崎町23番1号)  
TEL(0848-22-6513)

**主 催** 広島県中学校教育研究会特別活動部会

**共 催** 広島県教育委員会

**後 援** 広島県公立中学校長会 尾道市教育委員会 府中市教育委員会  
神石高原町教育委員会 三原市教育委員会 世羅町教育委員会

### 日 程

8:30	9:00	9:20	9:35	10:05	11:05	11:55	12:40	14:35	15:35	16:15
9:00	9:20	9:30	9:50	10:55	11:55	12:40	14:20	15:25	16:15	16:30
受 付	開会行事	実践発表	生徒発表	公開授業	協議会	昼食	記念講演 (含紹介・謝辞)	分科会	全体会	閉会行事
30	20	10	15	50	50	45	100	50	40	15

### 公開授業

[学級活動]

学年・学級	授業者	題材名	場所
1年3組	佐藤 祐司 教諭	「文化祭」伝統を受け継ぐ ～日比中生に求められること～	1年3組 教室
2年1組	風盛 文哉 教諭	「文化祭」伝統を受け継ぐ ～日比中の新リーダーとして～	2年1組 教室
3年2組	川嶋 新平 教諭	「文化祭」伝統を受け継ぐ ～日比中で得た宝物～	3年2組 教室



## 分科会

分科会	第1分科会	第2分科会
	学級活動1	学級活動2（進路指導）
テーマ	自己肯定感を高める学級活動 ～話し合い活動を通して～	自主的・実践的な活動を通して、 自己実現を図る進路指導
提案者	海田町立海田中学校 川本 正大	福山市立大成館中学校 桑木 亮輔
司会者	府中町立府中緑ヶ丘中学校 梶山 直樹	福山市立東中学校 中島 悠輔
記録者	海田町立海田西中学校 中元 健裕	福山市立向丘中学校 大場 涼子
指導助言者	西部教育事務所 山口 洋平 指導主事	福山市教育委員会 沖藤 豊 指導主事
分科会	第3分科会	第4分科会
	生徒会活動	学校行事
テーマ	楽しい学校づくりの取組 ～いじめ防止の取組を中心にして～	郷土を想い、地域との協働による 「体験学習」を通して、社会参画意識・ 共感的人間関係を育む学校行事
提案者	広島市立己斐中学校 佐伯 陽子	安芸高田市立高宮中学校 松本 聡志
司会者	広島市立宇品中学校 中西理恵子	安芸高田市立甲田中学校 阿部 正志
記録者	広島市立宇品中学校 大重 直美	安芸高田市立八千代中学校 中原 有紀
指導助言者	広島市教育委員会 加藤 真弓 指導主事	西部教育事務所芸北支所 中島 貴宏 指導主事

## 講演

演題 『主体的・対話的で深い学びを促す特別活動の創造』  
～話し合い活動を通じた合意形成力や意思決定力の育成～

講師 國學院大學 人間開発学部 教授 杉田 洋 先生  
(前 文部科学省初等中等教育局 視学官)

## 講評

広島県教育委員会 豊かな心育成課 土田 俊弘 指導主事







## 令和元年度 研究構想図

### 学校教育目標

『高くかかげよ』  
～夢と志を抱き、仲間とともに、高め合う子どもの育成～

### 研究主題

『主体的な学びを促す探究学習の創造』  
～課題設定と協働学習（話し合い活動）の充実を通して～

### 研究仮説

各教科・領域において、「強い問題意識と達成欲求を抱かせる課題設定」のある探究学習の授業を展開し、その中で協働学習（話し合い活動）を充実させることができれば、生徒の知識活用力および資質・能力（表現力・コミュニケーション能力・主体性）をより育成できるであろう。

本校で育成を目指す資質・能力

表現力  
(思考、判断、表現力と活用力)

コミュニケーション能力  
(読解力と対話力)

主体性  
(好奇心と課題発見力)

日比中スタイルを活用した  
探究学習

教科  
(道徳以外)

特別の教科  
道徳

特別活動  
(学活、学校行事)

総合的な学習の時間

研究内容①

強い問題意識と達成欲求を抱かせる課題設定

単元を貫く問い

中心発問

議題の充実

単元を貫く問い

研究内容② 協働学習の充実（少人数班、ホワイトボードの活用、全体討議の実施など）

話し合い活動

話し合い活動

話し合い活動

話し合い活動

各教科・領域の土台となる言語活動

- ・知的活動（論理や思考）及びコミュニケーションや感性、情緒を育成する活動
- ・各教科で培った言語に関する能力
- ・生徒発表の場（自己表現）
- ・読書活動、視写

### 学校評価 重点目標

- (1) 感動と涙と歌声あふれる卒業証書授与式  
(体育大会・文化祭、学校行事を通したリーダーシップの育成)
- (2) 主体的な学びを促す授業づくりの推進（解きたくなる課題・思考を深める学び合い）
- (3) 生徒の心に寄り添う生徒指導と進路指導（指導の入る人間関係を基盤とした指導）
- (4) 特別活動の推進（生徒会活動を通した話し合いによる合意形成力の育成）

## 令和元年度 特別活動 研究構想図

### 学校教育目標

『高くかかげよ』  
～夢と志を抱き、仲間とともに、高め合う子どもの育成～

### 研究主題

『主体的・対話的で深い学びを促す特別活動の創造』  
～話し合い活動を通じた合意形成力の育成～

### 研究仮説

特別活動（学級活動）において、「生徒発信による議題設定」を行い、じゃんけんでもなく、多数決でもない「話し合い活動」を充実させることができれば、生徒の合意形成力と意志決定力をより育成できるであろう。

本校の特別活動で重点的に育成を目指す力

合意形成力

意思決定力

日比中スタイルを活用した  
特別活動（学級活動）

#### 研究内容① 議題の充実（意欲を高める生徒発信の工夫）

- （１）学校行事を核とした、生徒がチャレンジしたいと思う単元づくり（１年を見通したPDCAサイクル）
- （２）生徒の思い（アンケート等）に寄り添った、生徒による議題の決定
- （３）議長団の育成

#### 研究内容② 話し合い活動の充実

- （１）２つの学習過程の活用
  - ・合意形成（出し合う、わかり合う、比べ合う、まとめ合う。「私は」→「私たちは」へ）
  - ・意思決定（つかむ、さぐる、見つける、決める。「私たちは」→「私は」へ）
- （２）少人数班による討議の充実（「出し合う」）
  - ・ホワイトボードの活用、発表時のホワイトボードの提示の工夫
- （３）全体討議の充実（「わかり合う」「比べ合う」）
  - ・討議の見える化（ホワイトボードに生徒の意見を加筆していく）
  - ・質疑応答、グルーピング、ラベリング（意見の練り合い、吟味）
- （４）「まとめ」の工夫（「まとめ合う」）
  - ・キーワードをしぼる、複数の意見を残す（～〇箇条）



# 指導案

1 年 3 組 P 9 ~ 1 7

2 年 1 組 P 1 8 ~ 2 4

3 年 2 組 P 2 5 ~ 2 9



# 「文化祭」 伝統を受け継ぐ～日比中生に求められること～

## 学級活動(1) 学級や学校における生活づくりへの参画

本単元で育成する資質・能力

(教科) 特別活動 (学校) 表現力, コミュニケーション能力, 主体性

- 1 日時 令和元年11月18日10:05～10:55
- 2 学年 第1学年3組 (男子15名 女子16名 合計31名)
- 3 場所 1年3組の教室
- 4 題材について

## (1) 生徒の実態

本学級の生徒はこれまでに、『話し合い活動』を重視した学級活動に取り組んできた。『じゃんけん』や『多数決による』決定で決めるのではなく、合意形成能力や意志決定力を重視した学級活動に取り組んでいる。以下の表は、本学級が7月に実施したアンケートの結果である。

項目	肯定 (はい)	否定 (いいえ)
授業で自分の考えや意見を発表しやすい雰囲気がある。	87%	13%
授業では、事実や友だちの意見を正確に理解できています。	97%	3%
授業では、自分の立場を明確にして話し合いができています。	97%	3%
授業では、友だちの意見を聞いて、異なる視点から自分の考えを振り返ることができています。	93%	7%
ふだん、人と話をするときは、「相手」や「場」を意識しています。	93%	7%

この結果から、本学級の生徒は、個人の意見を「出し合う」ことや「わかり合う」ことは得意である。しかし、個人の意見と他者の意見を「比べ合い」深め合うことや「まとめ合う」ことが不十分である。

これらは、互いの意見を深め合い、構築するための経験の少なさによるものと考えられる。

そこで、年度当初より取り組んできた学級活動(1)合意形成能力のプロセスを活用し、少数意見も取り入れながら、生徒自らが課題を見だし、その解決方法や目標について、協力して取り組んでいきたい。

## (2) 題材設定の理由

本題材は、学習指導要領特別活動〔学級活動〕内容(1)「学級や学校における生活づくりへの参画」のウ「学校における多様な集団の生活の向上」にかかわるものである。

学校の二大行事である体育大会や文化祭を終えて、リーダーとしての自覚や集団活動においても意識が向上している。一方で、4月から学校を引っ張っていた3年生は受験に集中し、1年生も積極的に生徒会選挙など学校運営に参加していく時期であり、目標としている先輩の姿を思い描きながら、次世代のリーダーとしての姿を考え、日比中生の伝統を受け継ぐ必要がある。

そのため、学級全体で日比中生に求められていることについて、目標としている先輩の姿について考えることで、「互いの行動や、新1年生に対する関わり方」について意見を出し合い、どんな先輩になりたいかクラスで目標を設定したいと考えている。

そこで決められた目標をもとに、3学期は新2年生への準備期間とし、1人1人が一生懸命の姿を発揮し、学年として一体感があり、困難なことにも挑戦する姿を見せていきたい。



## 5 学校が育成を目指す資質・能力

本校が教育課程全体を通じて育成を目指す資質・能力は、「表現力、コミュニケーション能力、主体性」である。この目指す資質・能力を育成するためには、各教科・領域等の授業における「展開場面」において、生徒が主体的に活動している時間の質と量を高めることが重要である。更に、生徒が主体的に活動するためには、「強い問題意識と達成欲求を抱かせる課題設定」が不可欠であると考え、研究を重ねている。

本題材においても、「強い問題意識と達成欲求を抱かせる課題設定」を行い、少人数班で考えを何度も練り直させ、思考したことをミニホワイトボードに表現した後全体へ発表させるスタイルをとっている。

資質・能力	知識・スキル			意欲・態度	
	表現力・コミュニケーション能力			主体性	
レベル 1	授業の展開の場面で（ミニホワイトボード等を使用して）	(話す) ○自分の考えや意見を、自分のことばで表現することができる。	(聞く) ○相づちを打ちながら、途中で口をはさまずきいている。	(やりとり 1 回) ○聞いて質問することができる。	○課題に対して、自分の考えを持ち、取り組もうとしている。
レベル 2		わかりやすく（伝える） ○自分の考えや意見をわかりやすくまとめ、自分のことばで表現することができる。	(聴く) ○話の組み立て、構造を考えながら伝え、相手の意図や要点を整理しながらきくことができる。	(やりとり 2 回) ○さらに深めた質問ができる。	○課題に対して、自分の考えを持ち、自ら進んで取り組もうとしている。
レベル 3		(説得する) ○自分の考えや意見をわかりやすくまとめ、目的や場に応じて、適切な方法で表現することができる。	(訊く) ○相手の考えについて根拠の信頼性を判断しながらきき、話された内容と自分の意見をふまえて疑問点を明確にし、相手にたずねることができる。	(やりとり 3 回以上) ○質問の後に自分の意見を述べ、内容を深めることができる。	○自ら課題を見つけ、自分の考えを持ち、よりよい方法を選択し、自ら進んで取り組もうとしている。

## 6 学級活動（1）「学級や学校の生活づくり」の評価規準

集団活動や生活への関心・意欲・態度	集団や社会の一員としての思考・判断・実践	集団活動や生活についての知識・理解
学級や学校生活の充実と向上に関わる問題に関心をもち、他の生徒と協力して、自主的、自律的に集団活動に取り組もうとしている。	学級や学校の一員としての自己の役割と責任を自覚し、他の生徒の意見を尊重しながら、集団におけるよりよい生活づくりなどについて考え、判断し、信頼し支え合って実践している。	充実した集団生活を築くことの意識や、学級や学校の生活づくりへの参画の仕方、学級集団として意見をまとめる話し合い活動の仕方などについて理解している。

## 7 展開の過程

### (1) 事前の指導と生徒の活動

期日	活動の場	活動の内容	指導上の留意点	目指す生徒の姿と評価方法
9月25日(水)	放課後 (議長会)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・議題と提案理由を検討する。</li> <li>・アンケート項目の確認する。</li> <li>・文化祭に向けての全体計画を把握する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の思いを聞きながら、本時の流れを検討し、活動の見通しをもてるようにする。</li> </ul>	<b>【関心・意欲・態度】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・話し合い活動が深まるよう自的・自律的に準備を進めようとしている。</li> </ul>
9月26日(木)	昼休憩 (議長会)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文化祭の映像を確認し、文化祭に向けてのイメージを掴む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度の映像をもとに、文化祭の流れや活動の見通しをもてるようにする。</li> </ul>	<b>【関心・意欲・態度】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・話し合い活動が深まるよう自主的に準備を進めようとしている。</li> </ul>
9月27日(金)	放課後 (議長会)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケート結果をもとにKJ法を行い、項目を選定する。</li> <li>・各クラスで提案理由を練り上げ、本活動計画を立てて話し合いの柱を検討する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・話し合いの柱が提案理由にそうように、指導・助言する。</li> </ul>	<b>【関心・意欲・態度】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・話し合い活動が深まるよう自主的に準備を進めようとしている。</li> </ul>
10月1日(火)	放課後 (議長会)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・議長団のリハーサルを実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動の流れの見通しをもたせるようにする。</li> </ul>	<b>【関心・意欲・態度】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・話し合い活動が深まるよう自主的に準備を進めようとしている。</li> </ul>
10月4日(金)	学級活動(1) ～文化祭への取組～	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文化祭に向けた取組の学級目標を決定する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・意見が出にくい場合は、周囲と考えるように助言する。</li> </ul>	<b>【思考・判断・表現】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・話し合い活動が深まるように、多様な意見を生かし合い、その方法を考え、判断し、互いに合意形成を図っている。</li> </ul>

10月21日(月)	昼休憩 (議長会)	・提案理由を練り上げ、本時の活動計画を立て話し合いの柱を検討する。	・話し合いの柱が提案理由にそうように、指導・助言する。	【関心・意欲・態度】 ・話し合い活動が深まるよう自主的・自律的に準備を進めようとしている。
10月23日(水)	放課後 (議長会)	・議長団のリハーサルを実施する。	・活動の流れの見通しをもたせるようにする。	【関心・意欲・態度】 ・話し合い活動が深まるよう自主的・自律的に準備を進めようとしている。
10月24日(木)	学級活動(2) ～達成に向けての修正～	・文化祭に向けた取組について、現状を確認し、課題を見つけ、課題に対する手立てを考え決定する。	・クラスの課題を確認し、個人としての目標を確認する。	【知識・理解】 ・文化祭の成功に向けて学年で取り組むことの意義について理解している。
10月30日(水)	放課後 (議長会)	・提案理由を練り上げ、本時の活動計画を立て話し合いの柱を検討する。	・話し合いの柱が提案理由にそうように、指導・助言する。	【関心・意欲・態度】 ・話し合い活動が深まるよう自主的・自律的に準備を進めようとしている。
11月2日(日)	文化祭当日	・学級活動を通じて積み上げてきたものを表現する。	・個々の活動内容を確認し、全員で表現できるようにする。	【知識・理解】 ・文化祭の成功に向けて学年で取り組むことの意義について理解している。
11月6日(水)	学級活動(1) ～文化祭の振り返り～	・活動過程や文化祭当日を振り返り、互いの良さを賞賛するなどしながら今後の学校生活の在り方について考える。	・生徒の活躍について具体例を示して賞賛する。 ・成果と課題を具体的に記入するように助言する。	【思考・判断・表現】 ・話し合い活動が深まるように、多様な意見を生かし合い、その方法を考え、判断し、互いに合意形成を図っている。

11月7日(木)	昼休憩 (議長会)	・提案理由を練り上げ、 本時の活動計画を立て 話し合いの柱を検討 する。	・話し合いの柱が提案理 由にそうように、指 導・助言する。	【関心・意欲・態度】 ・話し合い活動が深 まるよう自主 的・自律的に準 備を進めようと している。
11月14日(木)	放課後 (議長会)	・議長団のリハーサル を実施する。	・活動の流れの見通し をもたせるようにす る。	【関心・意欲・態度】 ・話し合い活動が深 まるよう自主 的・自律的に準 備を進めようと している。

## 8 本時の指導と生徒の活動

### (1) 本時の目標

①本時の活動テーマ「文化祭“伝統を受け継ぐ”～日比中生に求められていること～」

議題：「次世代のリーダーとして、どのような先輩になりたいか考えよう」

#### ◇本時のねらい

○学級や学校の一員としての自己の役割と責任を自覚し、他の生徒の意見を尊重しながら、次世代のリーダーとしての先輩について考え、話し合いを通して、合意形成能力を育てる。

(思考・判断・表現)

### (2) 準備物

・ホワイトボード、TV

### (3) 学習の流れ

	学習活動	指導上の留意事項	評価規準〔観点〕 ★資質・能力 (評価方法)
活 動 の 開 始	1, はじめの言葉 (議長団) 2, 議題の発表・確認 (学級委員) 3, 提案理由の説明 (学級委員)	◇聴くときは、しっかり聴くように助言する。	
	4, 先生の話		





<提案理由>  
 体育大会や文化祭の行事を通じて、リーダーとして日比崎中学校を引っ張る先輩の姿を見てきました。一方で、リーダーとして日比中生に求められていることについて分かりません。そこで、次世代のリーダーとして「どんな先輩になりたいか」具体的に考え、後輩の手本となるような輝ける新2年生になるために提案します。

活動の展開	<p>5, 話し合い</p> <p>(1) 出し合う</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個人の考えを記入する。</li> <li>・班で意見を出し合う。</li> </ul> <p>(2) わかり合う</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・班で出し合った意見をボードに記入し、他の班に共有する。</li> </ul> <p>(3) 比べ合う</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ボードに記入されている自分達の班と同じ意見や異なる意見を、つかみ・さぐり・見つけあうことで、理解を深める。</li> </ul> <p>(4) まとめ合う</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・話し合い活動を通して得られた意見をもとに、合意形成を図る。</li> </ul>	<p>◇「私」を主語に、提案理由を考えるように助言する。</p> <p>◇具体的に意見を出すように助言する。</p> <p>◇様々な角度から考えるように助言する。</p> <p>◇必要に応じて積極的に助言を加える。</p> <p>◇「私たち」を主語に、まとめ合うように促す。</p>	<p><b>【思考・判断・表現】</b></p> <p>◎学級や学校の一員としての自己の役割と責任を自覚し、他の生徒の意見を尊重しながら、次世代のリーダーとしての先輩について考え、話し合いを通して、合意形成能力を育てる。 (振り返り)</p>
活動のまとめ	<p>6, 決定事項の確認 (議長)</p> <p>7, 自己評価・感想記入</p> <p>8, 先生の話</p> <p>9, 終わりの言葉 (副議長)</p>	<p>◇集団決定されたことを受けて、自分は何をどう心掛けるか記入するように助言する。</p> <p>◇話し合いの流れを方向付けた発言や議長団の活動などを賞賛するとともに、実践に向けて活動意欲を高める。</p>	

(4) 事後の指導と生徒の活動

期日	活動の場	活動の内容	指導上の留意点	目指す生徒の姿と評価方法
11月25日(月)	学級活動(2) ～生徒会選挙～	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒会選挙の活動状況について、現状を確認し、課題を見つけ、課題に対する手立てを考え決定する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クラスの課題を確認し、個人としての目標を決定できるように助言する。</li> </ul>	<p><b>【思考・判断・表現】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・話し合い活動が深まるように、多様な意見を生かし合い、意思決定を図っている。</li> </ul>

9 話し合い活動での観察による評価のルーブリック

	レベル			
	1	2	3	4
	 <p>このにゃん</p>	 <p>ミニにゃん</p>	 <p>おのにゃん</p>	 <p>スーパーおのにゃん</p>
出し合う	○自分の意見が出せない。	○自分の意見は出ている。	○話し合いの目的に沿った目標が提案できている。	○教科や総合的な学習の時間などをつなげた目標が提案できている。
わかり合う	○班の意見が出ない。	○班での意見が出る。	○班で話し合いの目的に沿った目標が提案できている。	○班で、教科や総合的な学習の時間などをつなげた目標が提案できている。
比べ合う	○意見が出ない。	○質問（疑問点）ができる。	○相手の意見を認め内容について、質問できる。	○相手の意見を認め、比較し、発展した質問ができていく。
まとめ合う	○合意形成ができない。	○合意形成ができる。	○相手の意見を取り入れて、グルーピングとラベリングを行い、合意形成できる。	○少数意見も吟味し、グルーピングとラベリングを行い、合意形成することができる。

窓側（ホワイトボード）


黒板

議題	提案理由	出し合う	比べ合う	まとめ合う
		・		
		わかり合う		





# 「文化祭」 伝統を受け継ぐ ～ 日比崎中学校の新リーダーに向けて 2-1 行動宣言 ～

本単元で育成する資質・能力

(学校) 表現力, コミュニケーション能力, 主体性

- 1 日時 令和元年11月18日(月) 10:05～10:55
- 2 学年 第2学年1組 (男子21名 女子18名 合計39名)
- 3 場所 2年1組教室
- 4 題材について

## (1) 生徒の実態

本校2学年の生徒は、元気が良く、授業や行事では、活発に取り組んでいる。一方で、入学当初は、自己有用感が低く、授業や行事の取組の際には、ネガティブな発言も出る学年であった。しかしながら、日々の学校生活や行事を通して、目標に向かって前向きに取り組む先輩の姿や学校行事での成功体験から、自信をつけはじめ『一生懸命がすばらしい』ことを実感し始めた今日この頃である。表1は、本学級について7月に実施した生徒質問紙の結果である。この結果から、肯定的なポイントが多いが、他者に自分の考えを伝えることや、自分たちの「良さ」に関するポイントが他と比べて低いことがわかる。

表1 7月に行った生徒質問紙の結果

項目	あてはまる			あてはまらない		
	よく	やや	計	あまり	まったく	計
クラスは、居心地がよい。	60.5	36.8	97.3	2.7	0.0	2.7
自分のことをわかってくれ、困っているときに助けてくれる友達がいる。	68.4	31.6	100	0.0	0.0	0.0
みんなで何かに取り組み、やってよかったと感じることがある。	60.5	39.5	100	0.0	0.0	0.0
授業で自分の考えや意見を発表しやすい雰囲気がある。	55.3	31.6	86.9	10.5	2.6	13.1
授業では、友達の意見を聞いて、異なる視点から自分の考えを振り返ることができています。	57.9	34.2	92.1	7.9	0.0	7.9
授業では、自分の考えを積極的に伝えていきます。	40.3	35.1	75.3	20.8	3.9	24.7
自分には、よいところがあります。	37.7	39.0	76.6	19.5	3.9	23.4

## (2) 議題設定の理由

本校では、学校経営構想図にも示されている『チャレンジ』『一体感』『一生懸命の姿』をテーマに生徒のリーダーが中心となって様々な教育活動に取り組んでいる。表2は当該学年が中心となっていく11月～6月の学校行事である。2学年は毎月大きな学校行事を控えており、本指導でも教師が中心となるのではなく、生徒主体の活動を設定した。

具体的には、中学校生活の折り返し地点を迎え、自分たちが日比崎中学校の新リーダーとして歩んでいく中で、『文化祭』を題材として、PDCAサイクルを意識した単元計画を立てた。A(改善)にあたる、本時案では、自分たちの『良さ』と『課題』に向き合わせ、それを発展させた『行動宣言』を一人一人がたてることで、自分たちが取り組んでいく具体的な行動を考えさせたい。

表2 本校2学年が中心となる今後の学校行事

11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月
文化祭	生徒会選挙	立志式	修学旅行	卒業式 修了式	ええじゃん 出場	春季総体	体育大会

本指導にあたっては、今年度、学校全体で行ってきた合意形成能力を重視した「話し合い」活動を行う。「話し合い」活動は、議長、副議長、全体書記、記録書記から構成される議長団を結成し、生徒主体で行うものである。

### 5 学校が育成を目指す資質・能力

本校が教育課程全体を通じて育成を目指す資質・能力は、「表現力、コミュニケーション能力、主体性」である。この目指す資質・能力を育成するためには、各教科・領域等の授業における「展開場面」において、生徒が主体的に活動している時間の質と量を高めることが重要である。更に、生徒が主体的に活動するためには、「強い問題意識と達成欲求を抱かせる課題設定」が不可欠であると考え、研究を重ねている。

本題材においても、「強い問題意識と達成欲求を抱かせる課題設定」を行い、少人数班で考えを何度も練り直させ、思考したことをミニホワイトボードに表現した後全体へ発表させるスタイルをとっている。

資質・能力	知識・スキル			意欲・態度	
	表現力・コミュニケーション能力			主体性	
レベル1	授業の展開の場面で（ミニホワイトボード等を使用して）	（話す） ○自分の考えや意見を、自分のことばで表現することができる。	（聞く） ○相づちを打ちながら、途中で口をはさまずきいている。	（やりとり1回） ○聞いて質問することができる。	○課題に対して、自分の考えを持ち、取り組もうとしている。
レベル2		わかりやすく（伝える） ○自分の考えや意見をわかりやすくまとめ、自分のことばで表現することができる。	（聴く） ○話の組み立て、構造を考えながら伝え、相手の意図や要点を整理しながらきくことができる。	（やりとり2回） ○さらに深めた質問ができる。	○課題に対して、自分の考えを持ち、自ら進んで取り組もうとしている。
レベル3		（説得する） ○自分の考えや意見をわかりやすくまとめ、目的や場に応じて、適切な方法で表現することができる。	（訊く） ○相手の考えについて根拠の信頼性を判断しながらきき、話された内容と自分の意見をふまえて疑問点を明確にし、相手にたずねることができる。	（やりとり3回以上） ○質問の後に自分の意見を述べ、内容を深めることができる。	○自ら課題を見つけ、自分の考えを持ち、よりよい方法を選択し、自ら進んで取り組もうとしている。

## 6 評価規準

集団活動や生活への 関心・意欲・態度	集団や社会の一員としての 思考・判断・実践	集団活動や生活についての 知識・理解
リーダーを目指した取組 や過程に関心を持ち他の生 徒と協力して主体的に取り 組もうとしている	学校や学級の一員としての自覚 をもち、自分の役割や集団として のあり方について考え、判断し、 実践に努めている。	学級で話し合うことや、主体的に 学校のリーダーを目指した取り 組みの意義と、その喜びを理解し ている。

## 7 展開の過程

### (1) 事前の指導と生徒の活動

期日	活動の場	活動の内容	指導上の留意点	目指す生徒 の姿と評価 方法
10月4日 (金)	P学級活動(1) 文化祭に向けてク ラスの行動宣言を 立てる。	文化祭に向けて強みを生か し、弱みを克服することので きるクラスの行動宣言を立て、 達成に向けての行動計画 を立てる。	強みと弱みを踏まえた、 具体的な行動宣言 を立てさせる。 班ごとに立てた行動宣 言を深めるために、質 疑応答する活動を設定 する。	ワークシート ホワイトボー ド
10月25日 (月)	D1学級活動(1) 文化祭に向けての クラスの行動宣言 を検証する。	文化祭に向けての行動宣言 を振り返り、行動宣言の修正 や再確認をする。	文化祭に向けての行動 宣言を振り返り、現在 の達成度を数値化する。	ワークシート ホワイトボー ド
11月2日 (土)	D2 文化祭本番	2学年発表 ステージ発表 エイサー披露 合唱	『命どう宝』をテーマ にステージ発表やエイ サーを披露する。合唱 は元気に歌える島唄を 設定した。	行動観察
11月11日 (月)	C1学級活動(1) 文化祭に向けての 行動宣言を振り返 る。	目標達成ができたか、取り組 む姿勢がどうだったのか振り 返る。イメージしやすいよ うに数値化できるようにし ておく。	アンケートや記述内容 を教師がまとめてお く。	ワークシート
11月18日 (月) 【本時】	A1学級活動(1) これからの学校生 活に向けてのクラ スの行動宣言をた てる。	文化祭に向けて強みを生か し、弱みを克服することので きるクラスの行動宣言を立て、 達成に向けての行動計画 を立てる。	文化祭の振り返りと強 みと弱みを踏まえた、 具体的な行動宣言を立て させる。 クラスで行動宣言を立て ることを通して、合 意形成能力を高める。	ワークシート ホワイトボー ド

11月25日 (月) 【事後指導】	A2学級活動(2) これからの学校生活に向けて個人の行動宣言をたてる。	クラスの行動宣言をもとに、個人の行動宣言をたてる。	個人で行動宣言を立てることを通して、意思決定能力を高める	ワークシート 短冊
-------------------------	--	---------------------------	------------------------------	--------------

## 8 本時の指導と生徒の活動

### (1) 本時の目標

ア 議題「 今後の学校生活に向けての行動宣言を立てよう 」

イ 本時のねらい

○学級の一員としての自覚を深め、日比崎中学校新リーダーとしての活動意欲を高める。

(関心・意欲・態度)

○学級の取組に関心をもち、互いの考えを生かし、合意形成を図る。

(思考・判断・実践)

### (2) 準備物


・ホワイトボード、プレート

### (3) 学習の流れ

	学習活動	◇指導上の留意事項 ◆予想される生徒の反応	評価規準〔観点〕 ★資質・能力 (評価方法)
活動の開始	1 前回の振り返り 前時に考えた、文化祭の振り返り達成度の数値と強みと弱みを振り返る。 2 開会の言葉(議長) 3 議長団の紹介 4 議題の発表・確認(代表者) 5 提案理由の説明(代表者)	◇前時の学活の評価を行い、本時の見通しを持たせる。  ◇前時までの振り返りの記述から、提案者を指名する。	
	<p>&lt;提案理由&gt; 私たちは、文化祭を終えた今、日比崎中学校新リーダーとしての活躍を期待されている。私たちのクラスは、元気がいい面があるが、メリハリがない部分もある。信頼される先輩になるために、自分たちのクラスをさらにレベルアップさせることが必要だと考え、提案しました。</p>		

活動の展開	<p>6 話し合い活動</p> <p>(1) 出し合う (10分) 付箋を使った KJ 法を用いる。</p> <p>(2) わかり合う (5分) ※ホワイトボードを考え、質問内容を考える。</p> <p>(3) 比べ合う (10分) ※質疑応答を行う。</p> <p>(4) まとめ合う (15分) ※発表に回答する。 ※学級全体で良さと課題を統一する。</p>	<p>◇文化祭の達成度の変容、自分たちの『強み』と『弱み』に向き合わせる。</p> <p>◇ホワイトボードに大きくまとめる。</p> <p>◇見えにくい生徒は、移動させて見に来させる。</p> <p>◆質問例：1 班に質問です。授業の号令を大きくすると、なぜ良いのですか。</p> <p>◆応答例：日頃の号令を大きくすることで、ええじゃんなどの行事、日々の返事・あいさつなどなど色々な面でいい影響が出ると考えたからです。</p>	<p>【思考・判断・表現】</p> <p>◎学校や学級の一員としての自覚をもち、自分の役割や集団としてのあり方について考え、判断し、実践に努めている。</p>
活動のまとめ	<p>7 決定事項の確認 (議長)</p> <p>8 自己評価・感想記入 (10分)</p> <p>9 教師の話</p> <p>10 終わりの言葉 (副議長)</p>	<p>◇今後、個人として何ができるか。意思決定について展望を持たせる。</p>	<p>【観察】</p>

9 話し合い活動での観察による評価のルーブリック

	レベル			
	1	2	3	4
	このにゃん	ミニにゃん	 おのにゃん	スーパーおのにゃん
つかむ	○自分の意見を言うことができない。	○キーワードを用いて自分の意見を言うことができる。	○自分の意見を言うことができる	○強みと弱みをもとに根拠をもって自分の意見を言うことができる。
さぐる	○話し合い活動に意義を見出さない。	○ワークシートに書いてはいるが、発言しない。指名されて言う。	○自分の意見を理由と共にきちんと発言できる。	○自己の実態に照らし合わせて意見が言える。
みつける	○学級の意見に反応しない。	○学級の意見に反応する。○理由を述べることは難しいが、賛成や反対の意思を表示できる。	○学級の意見と自分の意見を比べながら、賛成意見や反対意見を言える。	○学級の意見と自己の意見を比べながら、理由を明確にして、賛成意見や反対意見を言える。 ○学級の意見を聞きながら、自己の考えを再検討できる。
きめる	○目標、解決方法を自己決定できない。	○目標、解決方法を自己決定できる。	○話し合いをもとに、目標、解決方法を自己決定する。	○話し合いをもとに、少数意見や弱者の意念も考慮しながら、自己決定を試みている。

7 班	4 班	1 班	まとめ合う
8 班	5 班	2 班	
9 班	6 班	3 班	

**議題**

今後の学校生活に向けての行動宣言を立てよう。

**提案理由**

私たちは、文化祭を終えた今、日比崎中学校新リーダーとしての活躍を期待されている。私たちのクラスは、元気がいい面があるが、メリハリがない部分もある。信頼される先輩になるために、自分たちのクラスをさらにレベルアップさせることが必要だと考え、提案しました。





# 「文化祭」 伝統を受け継ぐ～日比中で得た宝物～

学級活動(2)ア 自他の個性の理解と尊重, よりよい人間関係の形成

本題材で育成する資質・能力

(学校) 表現力, コミュニケーション能力, 主体性

- 1 日時 令和元年11月18日 10:05～10:55
- 2 学年 第3学年2組 (男子17名 女子19名 合計36名)
- 3 場所 3年2組教室
- 4 題材について

## (1) 生徒の実態

本学級の生徒はこれまでに、「じゃんけん」や「多数決」によって決めるのではなく、合意形成を重視した「話し合い」活動を意識した学級活動に取り組んできた。以下の表は、本学級について7月に実施したアンケートの結果である。

	あてはまる	あてはまらない
みんなで何かに取り組み、やって良かったと感ずることがある。	97.2%	2.8%
授業では、自分の考えを積極的に伝えています。	66.7%	33.3%
授業では、友だちの意見を聞いて、異なる視点から自分の考えを振り返ることができています。	97.2%	2.8%
自分には、よいところがあります。	75.0%	25.0%

この結果から、本学級において皆で何か協力して取り組むことに関して、多くの生徒が肯定的な考え方を持っていることがわかる。一方で、自分に自信のない生徒もおり、自分の考えを積極的に伝えることに関しても十分であるとは言えない。

## (2) 題材設定の理由

自己の個性を見つめ、それを大切にしていくことは、自己肯定感を高め、自己の確立や自己実現を図るための基盤となる。また、他者の個性を理解し互いに尊重し合うことは、自己理解を一層深めるとともに、豊かな人間関係を育てていくことにつながる。これらを達成するための具体的な活動として、この度は学校行事である文化祭の取組の中に、話し合いを含む学級活動を設定した。

本学級は、「開眼」という学級目標のもと、ものごとの本質をつかむという意識で何事にも協力して取り組んできた。生徒は、3年生の集大成となる文化祭の活動を通して、楽しい思い出だけでなく、成し遂げられた「達成感」「自信」「信頼感」「団結力」「友情」「一体感」などを得たいと考えている。

また、2学期の始業式では、校長より「最高の集団を作ろう」というミッションが与えられ、「感じる力」「ものごとを創り出す力」「チャレンジする力」を育てていく方向性が生徒に示されている。

これらのことは、「星河一天」(空一杯に数え切れないほどの星が川のように輝いている様子を意味する)という文化祭スローガンが示すように、本学級の生徒、一人一人が輝き、先輩として後輩から憧れられるような姿を見せることで実現が可能となるのではないかと考える。

そこで、本題材における学級活動では、文化祭を成功させるためにはどのようなことが必要か考え、合意形成を図りながら、実践する方法を設定、取組、検証、改善していく。その際、伝統を受け継ぐとはどのようなことか、次の世代にも伝えたいことは何かを話し合わせることで、文化祭成功に向けた視点の共有化、焦点化を図りたい。

そして、文化祭終了後には、本年度の文化祭だけではなく、体育大会やええじゃん SANSAGA がり、修学旅行など、これまでの2年半の中学校生活において、生徒達が日比崎中学校で手に入れたものは何

なのかを考えることで、3年生の学年としての長所、短所に気づかせたい。その上で、生徒一人一人に、自己の個性を見つめさせる。このような分析を生かして、生徒一人一人が、これからチャレンジする受験、そして中学校生活の最後を飾る卒業式に向け、どのように自己の課題に取り組んでいくか、考えを深めさせる。話し合いを通し、相手の意見を聞いて、自分の考えを広げたり、課題について多面的・多角的に考えたりして自分に合った解決方法を自分で決める意思決定を行うようにさせたい。

このように、クラスでの実態把握、目標設定、取組、検証、改善というマネジメントサイクルを回して学級づくりを進めていき、自分の考えを積極的に伝え合う話し合い活動を通して合意形成や意思決定を行うことのできる生徒の育成を図りたい。

## 5 学校が育成を目指す資質・能力

本校が教育課程全体を通じて育成を目指す資質・能力は、「表現力、コミュニケーション能力、主体性」である。この目指す資質・能力を育成するためには、各教科・領域等の授業における「展開場面」において、生徒が主体的に活動している時間の質と量を高めることが重要である。更に、生徒が主体的に活動するためには、「強い問題意識と達成欲求を抱かせる課題設定」が不可欠であると考え、研究を重ねている。

本題材においても、「強い問題意識と達成欲求を抱かせる課題設定」を行い、少人数班で考えを何度も練り直させ、思考したことをミニホワイトボードに表現した後全体へ発表させるスタイルをとっている。

資質・能力	知識・スキル			意欲・態度	
	表現力・コミュニケーション能力			主体性	
レベル1	授業の展開の場面で（ミニホワイトボード等を使用して）	(話す) ○自分の考えや意見を、自分のことばで表現することができる。	(聞く) ○相づちを打ちながら、途中で口をはさまずきいている。	(やりとり1回) ○聞いて質問することができる。	○課題に対して、自分の考えを持ち、取り組もうとしている。
レベル2		わかりやすく(伝える) ○自分の考えや意見をわかりやすくまとめ、自分のことばで表現することができる。	(聴く) ○話の組み立て、構造を考えながら伝え、相手の意図や要点を整理しながらきくことができる。	(やりとり2回) ○さらに深めた質問ができる。	○課題に対して、自分の考えを持ち、自ら進んで取り組もうとしている。
レベル3		(説得する) ○自分の考えや意見をわかりやすくまとめ、目的や場に応じて、適切な方法で表現することができる。	(訊く) ○相手の考えについて根拠の信頼性を判断しながらきき、話された内容と自分の意見をふまえて疑問点を明確にし、相手にたずねることができる。	(やりとり3回以上) ○質問の後に自分の意見を述べ、内容を深めることができる。	○自ら課題を見つけ、自分の考えを持ち、よりよい方法を選択し、自ら進んで取り組もうとしている。

## 6 評価規準

集団活動や生活への関心・意欲・態度	集団や社会の一員としての思考・判断・実践	集団活動や生活についての知識・理解
学級生活の向上や諸問題の解決に関心を持ち、文化祭や進路実現へ向けた活動に自主的、自立的に取り組もうとしている。	学級の一員として自己の役割と責任を持ち、諸問題の解決に向けて多様な意見を生かし合い、その方法を考え、判断し、互いに信頼し合って実践している。	文化祭を成功させる意義やそれに向けて学級で取り組むことの意義、進路実現等の諸問題の解決方法について理解している。

## 7 展開の過程

### (1) 事前の指導と生徒の活動

期日	活動の場	活動の内容	指導上の留意点	目指す生徒の姿と評価方法
10月2日 (水)	放課後 (学級委員・議長団)	・アンケート調査を集計し、議題を決定する。 ・提案理由を練り上げ、本時の活動計画を立て、話合いの柱を検討する。	・生徒の思いを聞きながら、本時の流れなどを検討し、活動の見通しをもてるようにする。	・話し合い活動が深まるよう自主的、自立的に準備を進めようとしている。 【関心・意欲・態度】(観察)
10月4日 (金)	第1回 話し合い活動 (学級全員) 学級活動(1)ウ	・「仲間とともに、文化祭を成し遂げるには」という議題のもと、文化祭の活動で自分達がどう行動していくかを考える。	・日比崎中学校のこれまでの先輩達から受け継いだものや、自分達の良さ(新しい伝統)、次の世代にも伝えたいことを意識させるようにする。	・学級生活の向上や諸問題の解決に関心を持ち、文化祭へ向けた活動に自主的、自立的に取り組もうとしている。 【関心・意欲・態度】(観察)
10月28日 (月)	第2回 話し合い活動 (学級全員) 学級活動(1)ウ	・現状を把握し、第1回で考えた行動目標の修正を行う。 ・後輩に自分達が伝えたいことが伝わる方法を考える。	・行動、声、態度、気持ちが後輩に伝わる形になっているのか、受け継いでほしいことがちゃんと表現できているのか、憧れてもらえる姿なのか、もっとこういう動きができるのではないかと、等に具体的な行動について考えさせる。	・文化祭を成功させる意義やそれに向けて学級で取り組むことの意義、諸問題の解決方法について理解している。 【知識・理解】(観察)
11月2日 (土)	文化祭 (学級全員)	・文化祭 本番(3年生演目:『赤龍太鼓』劇・太鼓・合唱)	・3年生として、後輩から憧れられるような姿を見せることを意識させるようにする。	・文化祭を成功させる意義やそれに向けて学級で取り組むことの意義、諸問題の解決方法について理解している。 【知識・理解】(観察)
11月7日 (木)	第3回 話し合い活動 (学級全員) 学級活動(1)ウ	・文化祭を通して得たもの、課題について考える。 ・文化祭を終えて、実際にやってみてどうだったのか、自分達の思いは本当に伝わったのか等を確認する。	・生徒の活躍について、具体例を示して賞賛する。 ・成果と課題を具体的に記入するよう助言する。	・学級の一員として自己の役割と責任を持ち、諸問題の解決に向けて多様な意見を生かし合い、その方法を考え、判断し、互いに信頼し合って実践している。 【思考・判断・実践】(観察)

### (2) 本時の指導と生徒の活動

#### ① 本時のテーマ

「日比中で得た宝物を生かして、自分は今後どのように過ごしていくか考えよう」

#### ② 本時のねらい

◎学級生活の向上や諸問題の解決に関心を持ち、進路実現へ向けた活動に自主的、自立的に取り組もうとしている。(関心・意欲・態度)

○学級の一員として自己の役割と責任をもち、諸問題の解決に向けて多様な意見を生かし合い、その方法を考え、判断し、互いに信頼し合って実践している。(思考・判断・実践)

③ 本時の展開

	学習活動	指導上の留意事項	評価規準〔観点〕 ★資質・能力 (評価方法)			
活動の開始	<p>1 始めの言葉 (副議長)</p> <p>2 問題の発見・確認 (<b>つかむ, さぐる</b>) 第3回の話し合い活動を振り返り、文化祭を通して自分達が得たもの、自分達の課題を再確認する。</p> <p>3 本時の活動の流れについて説明を聞く (議長)</p>	<p>◇ICT 等を活用して、本時の活動に対する意欲を高める。</p>				
活動の展開	<p>4 解決方法等の話し合い (<b>見つける</b>) 第3回の話し合い活動の内容を受けて、小グループや学級全体での話し合いを通して「日比中で得た宝物を生かして、私たちは今後どのように過ごしていくか」を追求する。 (議長団で進める。議長団は話し合いに参加せず、全体の様子を見る。必要な場合は、担任と打ち合わせ。)</p> <p><u>(1) 出し合う</u> ①個人の考えを記入する。 ②4人班で意見を出し合い、ポイントをホワイトボードに記入する。</p> <table border="1" style="display: inline-table; vertical-align: middle;"> <tr> <td style="text-align: center;">1 2 3 4 5</td> <td style="text-align: center;">～ ～ ～ ～ ～</td> <td style="text-align: center;">班</td> </tr> </table> <p><u>(2) わかり合う</u> ・ホワイトボードに書いたことを他の班に説明する。</p> <p><u>(3) 比べ合う</u> ・自分達の班と同じ意見を見つけたり、異なる意見や疑問に思ったことに対して質問するなど、ホワイトボードに書いてあることに対して、理解を深める。</p> <p>5 解決方法の決定 (<b>きめる</b>) 話し合い活動で共有化された解決の方向性等を参考にして自分としての解決方法等を「意思決定」する。</p>	1 2 3 4 5	～ ～ ～ ～ ～	班	<p>◇必要に応じて、積極的に助言を与える。</p> <p>◇話合われたことを受けて、自分は何をどう実践していくかについて、より具体的に記入するように助言する。</p>	<p>◎学級生活の向上や諸問題の解決に関心を持ち、進路実現へ向けた活動に自主的、自立的に取り組もうとしている。【関心・意欲・態度】</p> <p>○学級の一員として自己の役割と責任をもち、諸問題の解決に向けて多様な意見を生かし合い、その方法を考え、判断し、互いに信頼し合って実践している。【思考・判断・実践】</p> <p>(観察) (ワークシート)</p>
1 2 3 4 5	～ ～ ～ ～ ～	班				
活動のまとめ	<p>6, 決定事項の確認 (副議長)</p> <p>7, 自己評価・感想記入 (10分)</p> <p>8, 教師の話</p> <p>9, 終わりの言葉 (議長)</p>	<p>◇話し合いの流れを方向付けた発言や議長団の活動などを賞賛するとともに、実践へ向けて活動意欲を高めることができるように助言する。</p>				







# 分科会

第 1 分科会 P 3 1 ~ 3 2

第 2 分科会 P 3 3 ~ 3 4

第 3 分科会 P 3 5 ~ 3 6

第 4 分科会 P 3 7 ~ 3 8



## 第1分科会 [学級活動]

### 自己肯定感を高める学級活動

#### 「～話し合い活動を通して～」

海田町立海田中学校

教諭 川本 正大

#### 1 はじめに

本校は、海と山に囲まれた自然豊かな海田町の東部に位置する。学級数は通常の学級14学級、特別支援学級3学級の計17学級、生徒数は491名である。また、本校は生徒指導集中対策指定校として、不登校生徒の自立を支援するための取組（校内適応教室、教育特配等）による相談支援体制の強化とともに通級指導教室等、特別支援教育にも力を入れている。

#### 2 生徒の実態と課題

学校全体の雰囲気は、元気で明るく素直な生徒が多い。特に、体育祭などの行事では、3年生のリーダーシップにより主体的に取り組んでいる。

本学級の生徒は、小学校の頃から落ち着かない生徒が多く、自己肯定感が低いため、集団としての成功体験が少ない。

#### 3 実践の概要

##### (1) 【生徒から出される議題】

- ・学活の時間に、学校教育目標と体育祭スローガンを踏まえ、学級の体育祭目標を話し合った。

体育祭学級目標

「笑顔・努力・団結～1組が1番!～」

- ・体育祭練習で出た課題を、話し合いで解決し、次の練習に生かす。

##### (2) 【話し合いの留意点】

- ・生徒たちにゴールイメージ（体育祭の取組を通じてどんな学級にしたいか等）を持たせて話し合いを行う。
- ・練習時に、話し合いの材料（数値等）を教員が準備し、話し合いに具体性を持たせる。

##### (3) 【合意形成を図る手立て】

- ・教室に掲示し、常に集団としての意識を持たせる。
- ・話し合いにより出た意見を、否定的に捉えるのではなく、受け入れる姿勢を指導する。
- ・縦割集団としての関わり多く設定し、3年生の姿を見て、自分たちのクラスに生かすよう指導する。

##### (4) 【実践する場面の設定】

- ・体育祭1週間前から「こんないいところみつけた

よ」カードを帰りのSHRで書かせて、それを全体で紹介する。（お互いが認め合う活動）

- ・体育祭1週間前の学活では、各競技の課題点を自らの話し合いで出し合い、それに対しての解決方法をグループごとにプリントにまとめて学級掲示を行った。
- ・体育祭の振り返りを行い、その内容の一部を学級通信に掲載し全体に紹介した。
- ・「こんないいところみつけたよ」カードを一人一枚模造紙に貼り掲示した。

#### 4 成果と課題

##### 【成果】

話し合い活動が、体験活動と比例して自分の意見を積極的に言いやすい雰囲気に変容してきた。また、仲間に意見が取り入れられたりお互いが認め合ったりすることにより、練習中や本番では意欲的で前向きな言動が多く生徒から出てきた。課題のある生徒においても、最初は練習や話し合いに参加していなかったが、最終的には周りを励ますなど成長する姿が見えた。このような成功体験により、日頃の生活においても自信を持って学校生活を送る生徒が増え自己肯定感が高まったと考えられる。また、学級全体も自分の思いを自由に表現できる良い雰囲気となった。

##### 【課題】

話し合い活動を多く取り入れたが、単発的な意見が多くそれらが取り上げられていたが、教員が生徒から出た意見をつなぎ深めていくファシリテーター役をして、集団として建設的な意見にしていけば、より効果的であったと考えられる。

#### 5 おわりに

教員が「実態の把握」「話し合う材料」「思いが見える化」「多様なつながり」「声かけ」を意識して、話し合い活動を取り組むことで、生徒同士がつながり（絆が深まる）生徒一人ひとりの居場所作りになり自己肯定感を高めていく。その結果、自分が意見することに喜びが得られ、自分自身の行動に変わってくる。今後も、行事だけでなく授業においても、「話し合い活動を通して自己肯定感を高める学級活動」を心がけていきたい。



## 第2分科会〔学級活動2（進路指導）〕

### 自主的・実践的な活動を通して、自己実現を図る進路指導

福山市立大成館中学校 教諭 桑木亮輔

#### 1 はじめに

本校は、福山市西部に位置し、生徒数394名（15クラス）の中規模校である。学校教育目標を「心豊かに 自立・貢献・感謝する生徒の育成」とし、めざす生徒像を「『自主・自律』が確立した生徒」としている。

子ども達が生きるこれからの社会は変化が激しい社会であると言われ、こうした社会を生きる子ども達に求められる力として、知識や技能はもとより、課題発見・解決力、挑戦する力、粘り強さや忍耐力、コミュニケーション能力、思いやり・やさしさ・助け合いの心などの資質・能力を身に付けることが大切になってくる。

これらの資質・能力を福山市では「21世紀型スキル&倫理観」として、日々の授業を中心とした全ての教育活動の中で育み、日常の様々な場面で行動化できる確かな学びを目指し、「福山100NEN教育」として取り組んでいる。

本校では、「21世紀型スキル&倫理観」のうち、「コミュニケーション能力」と「思いやり」に重点をおき、特別活動においても授業改善等に取り組んでいる。

#### 2 生徒の実態

現在、中3の生徒の「基礎・基本」定着状況調査生徒質問紙（4項目）の推移（中2→中3）状況は次の通りである。

- ・「将来の夢や目標を持っています」  
□肯定的評価 72%→75% (3p↑)
- ・「将来の夢や目標は、かなうと思います」  
□肯定的評価 57%→71% (14p↑)
- ・「将来、仕事や生活の中で役に立つと思うから勉強しています」  
□肯定的評価 80%→86% (6p↑)
- ・「授業では、自分の考えを積極的に伝えています」  
□肯定的評価 55%→63% (8p↑)

#### 3 本校の特別活動の目標（資質・能力）

《コミュニケーション能力 思いやり》

- (1) 多様な他者と協働する様々な集団活動の意義や活動をする上で必要なことを理解し、行動の仕方を身に付けるようにする。
- (2) 集団や自己の生活、人間関係の課題を見だし、解決するための話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したりすることができるようにする。  
〔主に意見交流等〕

(3) 自主的・実践的な集団行動を通して身に付けたことを生かして、集団や社会における生活及び人間関係をよりよく形成するとともに、人間としての生き方についての考えを深め、自己実現を図ろうとする態度を養う。〔主に特別活動、道徳の授業等〕

#### 4 取組内容

- (1) 特別活動の授業改善（子ども主体の学び）  
題材「自分の夢や希望」  
～将来の夢を実現するために、自分の生き方を考えよう～
  - ・自己の将来に関するアンケート
  - ・「自己の将来について希望を持たずにいる」等の解決に向けた話し合い。
  - ・自分が目指す職業への適性を改めて考えることで、自己を高めていくために具体的な実践目標や内容を定めることができるようにする。

#### (2) 意見交流

- ①短学活交流  
年間3回、校内研修（各学期1回）として、各学年の学活を教員及び生徒が交流し、自主的・実践的な学活の充実を図っている。
- ②体育大会・文化祭  
体育大会及び文化祭の取組の中で、全校・学年単位で随時意見交流の場を持ち、行事に臨む心構えや課題を話し合い、全体の合意形成を図っている。
- ③小中歌声交流会  
校区内の4小学校（6年生）と歌声交流を行い、中学生としてのリーダーシップを発揮すると同時に、他者との協働及び他者理解に取り組んでいる。

#### 5 成果と課題

- アンケート調査結果等から、自己実現を図る進路指導の取組に一定程度の成果が見られる。
- 1年時の「福祉体験」、2年時の「チャレンジウィーク（職場体験）」、3年時の進路学習等が中学3年間を通じたキャリア教育の柱となっている。
- 「将来の夢や目標を持っています」の調査結果等を分析し取組内容を検証する。
- 子ども主体の学びを推進するための授業改善等が必要である。



## 楽しい学校づくりの取組 ～いじめ防止の取組を中心にして～

広島市立己斐中学校  
教諭 佐伯 陽子

### 1 はじめに

本校は広島市西部の緑に囲まれた、非常に落ち着いた生活環境の地域に位置し、本年度創立47周年を迎え、歴史的にも地域との関わりが大変深い学校である。

学級数は通常学級9学級、特別支援学級2学級の計11学級、生徒数286名である。学校教育目標「豊かな心を持ち、主体的に判断・行動し、課題を解決する力を持った生徒の育成を図る」の実現を図るため、学習面においては少人数指導や小グループを積極的に活用する授業展開、生活面においては生徒会を中心に「あ(あいさつ)じ(時間)み(身だしなみ)そ(無言清掃)」の取組を行い、豊かな心や人間関係の育成を図っている。

### 2 生徒の実態

平成30年度の全国学力・学習状況調査の生徒質問紙調査では、「学校の規則を守っていますか」という質問に、当てはまると回答した生徒の割合は83.7%であり、県平均よりも13.7%、全国平均よりも20.3%高い。また、いじめはどんな理由があってもいけないことだと思っている生徒の割合は87.0%と意識が高い。

しかし、実態としては、学校生活において、或いはSNS上で、思いやりに欠ける言動から生徒間でのトラブルが起こることもある。

### 3 取組内容

学校生活における身近なトラブルは、いじめへと発展する可能性があり、いじめのない楽しい学校をつくるには、生徒一人一人がいじめをしない、許さないといった意識を持つことが大切である。

そこで本校では生徒会を主体として「いじめ防止宣言」の作成と「楽しい学校づくり」標語作成の取組を行っている。

#### (1) 「いじめ防止宣言」の作成

1年間、学級でいじめを許さない意識を高めるため、「いじめ防止宣言」を各学級で5月に定め、1月には自分たちがどう行動できたか振り返る活動を行っている。

昨年の生徒総会で、ある学級から「宣言しても、いじめはなくなる」という意見が出されたことをきっかけに、執行部は改めて

① いじめはなぜ起こるのか

② いじめとはどういうものなのか

③ いじめを見たとき、聞いたときにどうするのか

をテーマに、各学級で話し合いを行った上で、「いじめ防止宣言」を作成するよう声かけを行い、学級での取組を進めた。

その結果、1年の振り返りの際に、「これまでよりいじめをしてはいけないという意識を持って生活できた」という意見が出された。

#### (2) 「楽しい学校づくり」標語作成

より良い学校生活を目指して、個々の意識向上を図るため、「楽しい学校づくり」をテーマに標語を一人一人が作成し、全員の作品を文化祭で掲示している。また、各学級から選ばれた優秀作品の中から、全員投票により最優秀を選び、横断幕にして掲示することで、執行部だけの取組ではなく、全校生徒の思いや意見を反映させた取組としている。

### 4 成果と課題

学校評価アンケートで、「いじめ防止宣言を実行できた」と考えている生徒の割合が、1年86%、2年74%、3年94%となり、「励まし合いが増えた」や「相手の気持ちを考えて言うようになった」という生徒の意見が多数あった。また、「いじめのないクラスになるようなどんなことに心がけたか」という質問には「誰かが一人にならないように気をつけた」等、相手のことを思いやる意見が見られ、取組に効果があったことがうかがえる。

一方、「陰で嫌なことを言う人がいる」や「状況があまり変わらない」という意見もあり、執行部を中心として、委員会や学級の取組を充実させていくことが課題である。

### 5 おわりに

これらの取組は、東京で行われた「全国いじめ問題子どもサミット」、広島市PTA協議会主催「いじめ防止子どもサミット」での発表に繋がり、高く評価され、執行部だけでなく生徒達にとって大きな自信となった。生徒達が主体的に行動し、活動評価をもとに、より実態に合った取組や、新たな内容へとつなげていくサイクルを今後とも継続し、「いじめのない楽しい学校」を実現するよう取り組んでいきたい。





## 第4分科会（学校行事）

### 郷土を思い、地域との協働による「体験学習」を通して、 社会参画意識・共感的人間関係を育む学校行事

安芸高田市立高宮中学校

教諭 松本 聡志

#### 1 はじめに

本校は、県の北端、中国山地の背後に位置し、昭和35年4月に設立された、全校生徒70人の小規模校である。地域や保護者の学校教育に関する関心は高く、PTA活動はもとより、ナイター運動会や地域公開行事など、地域と一体になった様々な行事や活動が盛んである。平成30年度には「第12回キャリア教育優良学校：文部科学大臣表彰」を受賞するなど学校・地域・産業関係者が連携・協働し、一体となって取組を進めている。

#### 2 概要

本校は学校教育目標「夢と志をもち、自らを高め、みがき合う生徒の育成」のもと、学校、各学年の行事を通して、共感的人間関係、自己肯定感、コミュニケーション能力、多様性に適応する対応力などの育成を図っている。その中で、目指す学校像の一つである「たかみやの優れた伝統文化や地域の活動が継承できる学校」を生かし、教育委員会・地域と連携して取り組んだ代表的なことを報告する。

#### 3 実践例

(1) 高美園（特別養護老人ホーム）訪問(1学年)  
1学年の大きな柱である『福祉・地域』をテーマに過疎の町、高宮町の課題である『高齢化対策』と『福祉』の実態を知り、地域の高齢化問題について考えさせる為、地域の特別養護老人ホームを訪問する活動を行った。

#### (2) 「商い体験」学習(2学年)

地元の産業や身近な職業について学び、生き方について考えるキャリアプランニング能力を身につけるため、修学旅行中、地元特産の「柚子商品」を商人の街「大阪」で販売する活動を行った。事前に柚子商品の製造・販売会社の方を講師として招聘し、柚子商品の魅力や歴史などを学習した。また、商品を「買っていただく」ための心構え、下準備なども学んだ。学んだことを当日の販売で

生かす為の話し合い活動を行い、合意形成を図った上で、当日を迎えた。体験当日は、販売、会計、試飲、試食準備、売り込みなど、役割を分担しながら、場面に応じて臨機応変に対応した。「商品完売」という目標に向けて、試行錯誤しながらも仲間が頑張る姿に奮起し、協力しながら粘り強く取り組んだ。

#### (3) 「たかみや大地の祭り」(全校生徒)

「郷土の活性化・継承」「地域の良さの発見」のため、毎年10月に行われる地元の「たかみや大地の祭り」へ参加した。地域振興会と連携し、中学校独自の店を2店舗運営した。また、祭り全体のMCを担当し、地域振興会が出店する各店舗で生徒が働くなど、「地域の行事」を「地域の一員」としての自覚を持ち、運営する取組を行った。

#### 4 成果と課題

上記の3つの取組は、地域の課題である

- 1 高齢化社会と福祉
- 2 地域活性化
- 3 地域文化の継承

を改善、解決するために、学校と地域が連携・協働して行った活動であり、学校と地域を「繋ぐ」「結ぶ」学習として非常に効果的であったと思われる。この活動を通じて、生徒が地域の課題や魅力、改善点を発見し、地域の将来について考えることができた。また、地域の方々との結びつきを深めることができた。今後も「教科」「道徳」「総合的な学習の時間」に関連した様々な行事を通して、自主的、実践的、協働的な生徒の育成を目指していきたい。

そのためには、行事ごとに目標やねらいを明確にし、活動の価値づけを指導者が行うことが必要である。また、地域の一員としての参画意識を高め、体験的な活動において、生徒の主体的な意見、話し合い活動を大切にすることも重要である。今後も地域と連携し、地域の良さを知り、継承できる学校作りを進めていきたい。



◇協議会報告◇

尾道市立重井中学校  
教諭 國廣 朋也

尾道市立向東中学校  
教諭 瀧奥 恵二

尾道市立向島中学校  
教諭 東 聡



◇閉会行事◇

閉会あいさつ

第29回広島県中学校特別活動研究大会（東部大会）実行副委員長  
尾道市立吉和中学校長 瀬戸 智

次期開催地代表あいさつ

広島県中学校特別活動研究大会次期開催地代表  
東広島市立高屋中学校長 新谷 三平

## 広島県中学校特別活動研究大会の経過

回	実施年月日	開催地	会 場	主 題	会 長
第1回	平成2年 11月23日	広島	広島市 青少年センター	心豊かな人間性をめざす特別活動の創造	上本 忠則
第2回	平成3年 11月20日	広島	広島市立 矢野中学校	心豊かな人間性をめざす特別活動の創造	上本 忠則
第3回	平成4年 10月21日	広島	広島市 青少年センター	心豊かな人間性をめざす特別活動の創造 —たくましさやさしさを求めて—	梶山 静海
第4回	平成5年 10月14日	西部	廿日市市立 四季が丘中学校	心豊かな人間性をめざす特別活動の創造 —たくましさやさしさを求めて—	梶山 静海
第5回	平成6年 10月21日	呉	呉市立 吉浦中学校	心豊かな人間性をめざす特別活動の創造 —主体的に行動できる生徒を育てるためには—	森山 弘行
第6回	平成7年 11月21日	福山	沼隈町学校組合立 至誠中学校	心豊かな人間性をめざす特別活動の創造 —たくましさやる気を求めて—	森山 弘行
第7回	平成8年 11月19日	広島	広島県立生涯 学習センター	心豊かな人間性をめざす特別活動の創造 —たくましさやさしさを求めて—	森山 弘行
第8回	平成9年 10月1日	山県	山県郡筒賀村立 筒賀中学校	心豊かな人間性をめざす特別活動の創造 —いのち・愛・人権・主体—	澤村 晴視
第9回	平成11年 9月30日	三原	三原市 中央公民館	心豊かな人間性をめざす特別活動の創造 —体感・知恵・主体—	澤村 晴視
第10回	平成12年 11月17日	安芸	安芸郡府中町立 府中中学校	心豊かな人間性をめざす特別活動の創造 —生きる力を育む—	高田 昭夫
第11回	平成13年 11月22日	福山	福山市立 城東中学校	心豊かな人間性をめざす特別活動の創造 —生きる力を育む—	高田 昭夫
第12回	平成14年 11月21日	西部	佐伯郡大野町立 大野中学校	心豊かな人間性をめざす特別活動の創造 —生きる力を育む—	高田 昭夫
第13回	平成15年 10月8日	広島	広島YMCA ホール2号館	心豊かな人間性をめざす特別活の創造 —生きる力を育む—	高田 昭夫
第14回	平成16年 10月8日	三原	三原市立 宮浦中学校	心豊かな人間育成をめざす特別活動の創造 —生きる力を育む—	森田 利美
第15回	平成17年 11月21日	東広島	東広島市 中央公民館	心豊かな人間の育成をめざす特別活動の創造 —生きる力を育む—	植木 唯男
第16回	平成18年 10月27日	福山	府中市 文化センター	心豊かな人間の育成をめざす特別活動の創造 —生きる力を育む—	宮之首行隆

第17回	平成19年 11月16日	庄原	庄原市 文化センター	心豊かな人間の育成をめざす特別活動の創造 —生きる力を育む—	松本まゆみ
第18回	平成20年 10月15日	広島	広島県立生涯 学習センター	心豊かな人間の育成をめざす特別活動の創造 —生きる力を育む—	加藤 映
第19回	平成21年 10月14日	尾道	広島県立 びんご運動公園	心豊かな人間の育成をめざす特別活動の創造 —生きる力を育む—	今崎 英明
第20回	平成22年 11月19日	呉	呉市郷原市民センター 呉市立郷原中学校	心豊かな人間の育成をめざす特別活動の創造 —生きる力を育む—	岩崎 真理
第21回	平成23年 11月17日	福山	福山市神辺文化会館 福山市立神辺西中学校	心豊かな人間の育成をめざす特別活動の創造 —生きる力を育む—	中 研司
第22回	平成24年 10月5日	芸北	美土里生涯学習 センターまなび	心豊かな人間の育成をめざす特別活動の創造 —生きる力を育む—	中 研司
第23回	平成25年 10月9日	広島	広島市立 国泰寺中学校	生きる力を育む特別活動を求めて —魅力ある特別活動の取組を通して—	中 研司
第24回	平成26年 9月19日	東部	神石高原町立 神石高原中学校	生きる力を育む特別活動を求めて —魅力ある特別活動の取組を通して—	政兼 功尚
第25回	平成27年 11月16日	西部	江田島市立 三高中学校	生きる力を育む特別活動を求めて —魅力ある特別活動の取組を通して—	政兼 功尚
第26回	平成28年 11月14日	福山	福山市立 東朋中学校	生きる力を育む特別活動を求めて —魅力ある特別活動の取組を通して—	胃甲 登
第27回	平成29年 11月13日	西部	廿日市市立 野坂中学校	生きる力を育む特別活動を求めて —魅力ある特別活動の取組を通して—	小松 葉子
第28回	平成30年 10月10日	広島	広島市立 高取北中学校	生きる力を育む特別活動を求めて —魅力ある特別活動の取組を通して—	大塚 由美
第29回	令和元年度 11月18日	東部	尾道市立 日比崎中学校	主体的・対話的で深い学びを促す特別活動の創造 ～話し合い活動を通じた合意形成力の育成～	宮里 浩寧

### 全日本特別活動研究大会広島大会

第27回	平成10年 8月7, 8日	広島	広島県民 文化センター	心豊かな人間育成をめざす特別活動の創造 —生きる力を育む—	澤村 晴視
------	------------------	----	----------------	----------------------------------	-------

## 令和元年度 広島県中学校教育研究会特別活動部会 理事一覧表

○会長 宮里 浩寧（尾道市立日比崎中学校）

○顧問 土田 俊弘（広島県教育委員会 豊かな心育成課 指導主事）

B	地区	役職	名前	職	勤務校
		顧問	土田 俊弘	県教委指導主事	
1	呉		大下 孝之	校長	仁方
			森脇 哲久	教諭	仁方
	竹原・大崎上島		北村 洋子	校長	賀茂川
	東広島		新谷 三平	校長	高屋
			木井直 芳秀	教諭	磯松
	江田島		河野 秀直	教頭	能美
			大竹 勇毅	教諭	江田島
	安芸	副会長	小山 貴美	校長	府中
			梶山 直樹	教諭	府中緑ヶ丘
	2	大竹・廿日市	副会長	吉岡 透	校長
			金谷 綾太	教諭	宮島
安芸高田			竹村 和洋	教頭	高宮
			阿部 正志	教諭	甲田
安芸太田・北広島			藤田 典生	校長	大朝
			井丸 尚	教諭	安芸太田
三次			砂走 勝美	校長	甲奴
			西岡 真	教諭	君田
庄原			加藤 真悟	校長	西城
3		三原		有木 浩城	校長
	尾道	会長	宮里 浩寧	校長	日比崎
			佐藤 祐司	教諭	日比崎
	府中		山坂 公宏	教頭	明郷
	世羅		福光 裕次	校長	甲山
	神石高原		藤野 賢二	校長	神石高原
4	広島市	副会長	大塚 由美	校長	高取北
			東歸 達子	教諭	祇園東
5	福山市	副会長	村上 啓二	校長	培遠
			桑木 亮輔	教諭	大成館
	事務局長		佐藤 祐司	教諭	日比崎

## 広島県中学校特別活動研究大会 開催予定地

回	年度	開催予定地	
第29回	令和元年度	第3ブロック	東部
第30回	令和2年度	第1ブロック	西部（芸北支所・大竹市・廿日市市を除く）
第31回	令和3年度	第5ブロック	福山市
第32回	令和4年度	第2ブロック	西部（芸北支所・大竹市・廿日市市）・北部
第33回	令和5年度	第4ブロック	広島市